

## ・名古屋のわらべうた『おせんべい』——伝承過程における音楽的变化

「わらべうた」は日本の民俗音楽である。それは、子どもたちが遊ぶときに歌ううたであり、口伝で今日まで歌い継がれてきた。名古屋のわらべうたを採集し、考察することで、この地域の独自性と、口頭伝承が特徴であるわらべうたの特徴をみることができる。その中で、《おせんべい》は全国で歌われているうただからこそ、伝承過程において、何かしら名古屋の独自性を表現するような変化を伴っているのではないかということを観察できるだろう、という推測から今回の調査を試みた。また、既刊の文献資料から、このうたが名古屋で歌われるようになったのが時代的にも新しいということも、今日のわらべうたの伝承過程における音楽的变化をみていくのにも最適であると考えた。

《おせんべい》は、からだを使って遊ぶときに歌ううたとして「からだあそびうた」に分類される。みんなで円になって遊ぶときに歌ううたである。今回行った調査は、名古屋近郊に住む男女500人に、2004年6月から8月半ばの期間で「現地での聞き取り調査」「アンケート調査」「既存資料の利用」の3つの方法で実施した。

リサーチ活動は、はじめに名古屋のわらべうたを採集し考察することで、地域の独自性と口頭伝承される「わらべうた」そのものの特性をみていく。ここで言う「わらべうたの特性」とは、伝承過程の中でされる音楽的变化のことである。既刊のわらべうた資料集ではデータが古い部分もあるので、今回の調査で集めたわらべうたをもとに、今日歌われている名古屋のわらべうたの大まかなものをリサーチした。結果、現代ではほとんど遊ばれることがなくなった「まりつき」「おてだま」などに相当するうたは、ほとんど採集されなかった。一方、「なわとび(大縄)」で歌われるうたは比較的たくさん採集することができた。さらに、まったく新しいわらべうたも採集できた。それはCMソングの替え歌だったのだが、最近CMソングとして使われている、もともとわらべうただったものに、子どもたちが興味を示し、再び「遊びの中のわらべうた」として歌い継いでいる。ここに、現代のわらべうたの在り方をうかがうことができよう。

そして、《おせんべい》の調査を進めていった。《おせんべい》の旋律の中に名古屋弁のアクセント(方言)をみることができた。微妙な音の高低で、ことばの特徴が表現されているのだが、明らかに他県で歌われているものとは違った旋律の流れが作り出されていた。これは、口伝で伝承される「わらべうた」とその地域のことばとが深く密着していることから得られた結果だと思われる。各地域のもつ独自性が影響されたのだろう。そういったことから《おせんべい》は、その伝承過程の中で「名古屋のわらべうたである」と言えるのに十分な要素を持つことになったといえる。

子どもたちは、遊びの中でどんどん変化させ歌い継いでいる。「わらべうた」は、歌い継がれていく過程の中でいかようにも変化していく。また、これがわらべうたの最大の魅力でもあるだろう。おそらく《おせんべい》は、名古屋で生まれたうたではない。しかし、今日まで歌い継がれ、うたの中にしっかりと名古屋らしさを含んでいる。名古屋の子どもたちにとって歌いやすい形に、知らず知らずのうちに変形されていった。単に歌いやすいだけではなく、あくまで遊びの中で歌われるうたなので、そのことに悪影響がないように自然な形になっている。今回の調査で採集した《おせんべい》だけをみても 16 のヴァリエーションを発見できた。そこから、子どもたちの創造性に対する驚きもあったが、地域の環境に影響を受けながら発展していく「わらべうた」をもう一度見直す必要があるのではないかと感じられる。

わらべうたは失われることなく歌い継がれている。昔に比べて、歌われる機会は明らかに減ってきてはいるが、わらべうたには日本人が生まれながらにして持っている日本の音楽感覚が詰まっているので、先に述べた CM ソングの例のようなことがありえるのだろう。さらに、どんどん自由に変形することができるということから、今もなお子どもたちは遊びの中で歌い続けているのではないか。

「わらべうた」は、日本の伝統的な民俗音楽である。伝承の過程で様々な形に変わり、そこには各地域の独自性もみることができる。これからもどんどん歌い継がれていくことを望むと同時に、音楽的側面からの「わらべうたの研究」について、考えていく必要がある。